

1. 実施内容

5月13日～ 10月26日	定例公演に関する脚本作成、劇・ダンスの練習、大道具小道具の作成、ホールとの打ち合わせ
5月13日～ 8月25日	あーす祭りに関する脚本作成。ならびにあーすでの劇の練習、大道具小道具に作成に協力。
7月1日	第3回地域包括ケアを考える講演会・シンポジウム 笑顔いきいきフェスタ参加（KAWAMURAグループ） 市民団体ブースに出展。
8月26日	あーす祭り『セカンドハートでまっています』本番 於生活支援センターあーす
10月27日	サーティホール入り、仕込み
10月28日	定例公演『おじいちゃん幽霊』本番 於サーティホール多目的小ホール 昼公演夜公演の2回公演
30年1月19日	あーす自主事業で『セカンドハートでまっています』再演に協力。於いいもりぷらざ。
3月17日	元気でまっせサポーターステップアップ講座に協力（大東市高齢介護課主催） 『このお金、誰のお金？ ～成年後見制度をしよう～』 『見守ろう見守られよう ～助け合える仲間づくり～』 於キラリエホール

2. 事業の報告

企画① 平成29年8月26日（土） あーす祭りに協力

コラボ劇『セカンドハートで待っています』

…地域生活支援センターあーすにて。

（翌年1月19日（土）あーすの自主公演で再演）

企画②平成29年10月28日（土） 第8回定期公演

『おじいちゃん幽霊』大東市提案公募型委託事業
昼公演夜公演

…サーティホール多目的小ホール

参考★平成 30 年 3 月 17 日（土） 元気でまっせサポーターステップアップ
講座に協力（大東市高齢介護課主催）

『このお金、誰のお金？ ～成年後見制度をしよう～』

『見守ろう見守られよう ～助け合える仲間づくり～』

…キラリエホール

計画した事業

- ① 障がいがあってもなくても…生活支援センター
あーすとコラボ。

生活支援センターあーすとコラボして、利用者の方と一緒に劇を作り、えんが協力して練習をし、8月下旬の「あーすまつり」で上演をする。



- ② 公演『おじいちゃん幽霊』コラボは、文芸評論家カジボンマルコ残月さん。

企画①と並行して、コラボ企画の講演と劇の公演を準備。劇の台本の作成と稽古を行う。サーティーホール多目的小ホールにて11月中旬に本番。



計画時の期待する効果

- ① 演劇の楽しみながら、「普通？」の境界線を越える。

あーすの利用者の方と一緒に演劇を作ることで、えんのメンバーも、あーすの利用者さんやスタッフも、一人一人がいわゆる「普通」と思っていることの境界線を一步越える経験を目指します。また、利用者の方に自己表現の一つの方法として演劇の手法を知ってもらうこと、発表することで自信につながることを目指します。

- ② サーティーホールの定例公演で、バリアフリーを表現する劇。

心のバリア（普通の境界線）を越える内容の劇と講演を上演します。会場に足を運んでもらった方が、それまでの常識や偏見を越えた新しい意識を持っていただけることを目指します。

結果

- (A) どんな内容だったか？

・企画① あーす利用者の「リアルな状況に近づいた内容にしたい」という利用者の希望に添って、脚本を作成。自分が「イヤだと思うところ（幻聴、うつ）」も自分の大切な一部なんだと気づいていくストーリー。

・企画② コラボの講演会では、ベートーベンから三好長慶まで、世界 100 ヶ国 2300 人以上のお墓にお参りして故人に感謝の気持ちを伝える墓マイラーカジボンさんが、世界のお墓から読み取れるメッセージを講演。



劇「おじいちゃん幽霊」小学 5 年生の夏休み。突然おじいちゃんを亡くしたヒロミは、どうしてももう一度会って聞きたいことがあった。

今後の話や遺産の話をする大人達の一方で、ヒロミと友達は「イタコ」に会いに行くことに。

出会ったのは「生と死」、

「常識と非常識」の境界線を

越えた存在。ヒロミが体験したことは…

おじいちゃんに聞きたかったことは…。

祖父の死を乗り越える少女のまなざしを通して、家族の愛と命のつながりを表現。



(B) 集客数は？

- ・企画①…ほぼ 40 席が満席。
- ・企画②…昼夜公演合わせて 300 名。(雨の影響もあり、昨年より 50 名減)

(C) 計画時の期待する効果と照らしてどうだったか？

- ① あーす祭り…利用者とスタッフの「利用者のリアルを劇にしたい」というニーズに沿って脚本を作成したことで、演じ手側の共感、達成感に加えて、観客の共感も得られた。

その結果、翌年 1 月 19 日（金）に再演（大東市本人活動支援事業）したことで、寝屋川市の NPO 法人「市民たすけあいの会」から後日取材。機関紙に取り上げられるということがありました。演劇が広げる人のつながりやポテンシャルを実感しました！。

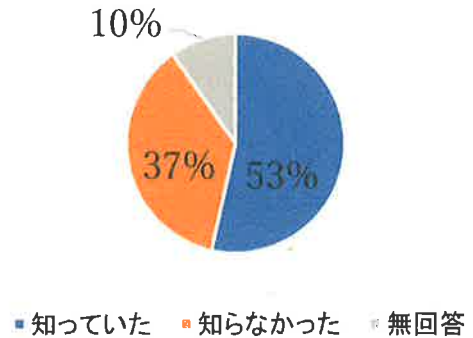
② 劇「おじいちゃん幽霊」…アンケート結果(回収 142 人、回収率 47%)

問1「えんを知っていたか？」

今回までにえんを「知っていた人」が 53%、「知らなかった人」が 37%でした。昨年、「知らなかった人」が「知っていた人」を上回ったのにもかかわらず、今年も新しく「知らなかった人」が 37%来場してもらえました。

このことから、市民劇団えんの観客層が広がっていることと、市民に観劇のニーズが高まっていると考えられます。

問1 えんを知っていたか？

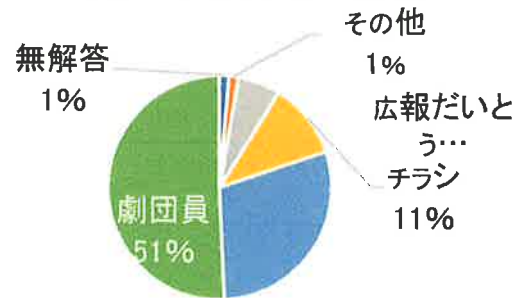


問2「今回の公演はどこで知ったか？」

引き続き「劇団員からの紹介」が約半数を占めるものの、「知人」が 30%で、紹介の紹介といった広がりがあったと考えられます。

また、「チラシを見て」16 人 (11%)、「広報だいつう」9 人 (6%) といった、紹介者がいなくても来場してもらえる人も二割弱いらっしゃることがわかります。

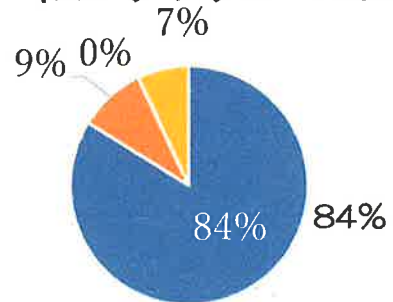
問2 どこで知ったか？



問3「内容はわかりやすかったか？」

84%の方が「わかりやすかった」、9%の方が「ふつう」答え、「わかりにくかった」は 0%でした。幼児から中学生の子どもが 20 名程度来場していたことを考えると、子どもにもわかりやすい劇だったと言えます。

問3 わかりやすかったか？



自由記述より

* とてもわかりやすく考えさせられる内容でした。実際の状況になったら自分ならどうするか考えさせられました。

* 孫(小1)が感動して泣いたそうです。

* 今生きていることの幸せを感じられた。毎日を楽しもうと思えた。「思い出してもら

■わかりやすかった ■ふつう ■わかりにくかった ■未記入

えることが死者にとって一番嬉しいこと」というセリフが心にしみた。